

中南地区統合校開設準備委員会報告書

平成31年1月18日

中南地区統合校開設準備委員会

平成31年1月18日

青森県教育委員会
教育長 和嶋 延寿 殿

中南地区統合校開設準備委員会
委員長 古山 哲司

中南地区統合校開設準備委員会の協議内容について（報告）

本開設準備委員会で、これまで協議した内容を、次のように取りまとめましたので報告します。

1 中南地区統合校開設準備委員会の設置趣旨及び協議について

中南地区統合校開設準備委員会（以下「開設準備委員会」という。）は、平成29年7月に策定した青森県立高等学校教育改革推進計画第1期実施計画に基づき、平成32年度に県立黒石高等学校及び県立黒石商業高等学校の統合による中南地区統合校の開設に必要な準備を進めるため、両校の校長、学校関係団体の代表者等を委員として設置されたものです。

以下は、開設準備委員会で協議を行った内容ですので、県教育委員会におかれては、今後この報告書を踏まえ、中南地区統合校の開設に向けた検討を行っていただくことを望みます。

2 開設準備委員会における協議事項及び協議結果について

(1) 中南地区統合校の基本理念

| 協議事項 | 協議結果 |
|------|--|
| 校名 | <p>○ 「黒石高等学校」及び「(新元号)黒石高等学校」の2案を開設準備委員会の案とする。</p> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 黒石市内に複数高校がある場合には様々な名前を検討することもあるかと思うが、黒石市内に1校しかなくなるので「黒石高校」にならざるを得ないのではないかと思う。 ・ 黒石高校及び黒石商業高校を一旦閉校し、新たに設置するという考え方を踏まえれば、2校ある場合は地名プラスほかの何かということになるが、1校しかないことから地名にならざるを得ないと感じる。 ・ 黒石市に唯一の学校となることから、他の学校と区別する必要がないと考えられる。やはり重きを置くのは地名であり、黒石市に唯一の学校であるということを強く打ち出す校名ということで「黒石高校」としてはどうか。 ・ 統合校が「黒石高校」となれば、「黒石商業高校」が吸収されてなくなってしまったと思われる可能性が強くなる。したがって、校名は「黒石+α」とし、来年、新たな元号になるのでその元号を黒石の前に入れ「青森県立(新元号)黒石高等学校」としてはどうか。 ・ 住民感情として様々なものは理解できるが、今は未来のことも過去のことも考え、単なる感情論ではない形で考える必要がある。 ・ 「黒石総合高校」にした場合、「総合学科」を設置している高校と勘違いされるおそれがある。また、現在、黒石高校は、普通科だけの高校ではなく看護科もあり、かつては英語科もあった。複数の学科を有している時から「黒石高校」であるので、改めて大学科「商業」を有する学校として「黒石実業高校」とするのもどうなのかと感じる。 ・ 「黒石高校」は従来から使われてきた校名であるため、新しさに欠けるという印象を持つ方もいると思う。しかし、このように委員の御意見を伺うと「黒石高校」という地名単独の校名が、黒石市に唯一の高校となる学校にふさわしい名前ではないかという印象を受けた。 ・ これまでの校名決定方法の連続性を保持した方が良い。 ・ 黒石市に1校であるので黒石高校と考えるが、新しい学校という観点から新元号を付す案も良案である。 ・ 多数の意見として「黒石高校」という地名単独の校名とするものであったが、新たな学校であることから新たな校名にする案も少数ではあるものの無視できない意見であろう。 |

| 協議事項 | 協議結果 |
|---------------------|---|
| <p>情報デザインに関する学び</p> | <p>○ 統合校における情報デザインに関する学びは商業科の専門性を強く打ち出した上で学科とし特色を出してもらいたい。</p> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報デザイン科という単独の学科として設置することが望ましいと考える。現在よりも学校規模が大きくなるので、学科として設置した方が、生徒の選択の幅、つまり多様性が確保できる。ただし、現在は商業的な色合いがやや薄まっていると思うので、大学科「商業」ということをしっかりアピールするような教育課程を編成した上で取り組むことが必要だと考える。 ・ 情報デザイン科の専門性を深化させるためには入学後の早い段階から手がけることが必要となるので、間違いなく「学科」である必要がある。定員割れについては「商業」という学びがうまく中学生等に伝わっていなかったことも要因として考えられるので、黒石高校と黒石商業高校が統合することによって大学科「商業」をアピールするチャンスになるのではないかと考える。 ・ 統合校には地域に根ざし、地域に密着した形でこれからも協力していただかなければならないと考える。黒石市を良くするために協力していただけていくことを考えると、やはり学科でなければ活動しにくいだろう。 ・ やむを得ず統合するという状態ではあるが、学科という形で日常的にチャレンジできる場所を黒石市内に確保し、将来に向かって子どもたちに新しい夢を与えることが、本当に黒石地域の子どもたちを幸せにする第一歩になると思う。 ・ コースにして2年生から2年間学ぶよりも、学科として特色を大いに出して募集した方が、新しい高校の中で特別な学習ができる場を選択することが可能となるので、今までには全くないような非常に質の高いものだということをアピールできると考える。 ・ 情報デザイン科は大学科「商業」として教育課程の見直しを行った上で学科として設置した方が良い。 ・ 特色ある教育活動を行うためには、情報デザインに関する学びは学科として設置した方が良い。 ・ 情報デザインに関する学びを学科として設置することは定員確保が大きな課題となるが、統合校では「特色ある学科」として盛り上げ、生徒の夢の実現に向けて努力するとの考え方で全委員が一致したと思う。 |

| 協議事項 | 協議結果 |
|------|--|
| 校 訓 | <p>○ 黒石高校の校訓等をそのまま踏襲し、黒石商業高校の「誓いのことば」も引き継ぐ方向としてもらいたい。</p> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校訓、教育目標、教育方針、重点目標については従来の黒石高校のものを引き継ぎ、黒石商業高校の「誓いのことば」についてもそのまま引き継いではどうか。「誓いのことば」こそが、まさに黒石商業高校の魂ではないかと考える。外側の部分は黒石高校であっても中身に黒石商業高校の魂を組み入れることで、両校を生かしたことができるのではないかと思う。 ・ 「誓いのことば」はそのまま使っていただきたい。黒石商業高校の1回生から機会あるごとにこの「誓いのことば」を全員で唱えているため、黒石商業高校の目指したものが生徒に自然と根付き、その言葉は今でも多くの卒業生が覚えている。これを利用していただければ非常にうれしい。 ・ 黒石商業高校が今実践している「誓いのことば」は創立からの基本精神であり、この先実践しても何ら遜色がないものである。今後も生徒の教育に役に立つものと考えるので、統合校において是非踏襲し実践していただければ良い。 ・ 黒石高校の校訓等を活用するとともに、黒石商業高校の「誓いのことば」を実践していくことに委員全員が賛成だったと認識している。 ・ 校訓、教育目標、教育方針は現在の黒石高校のものをそのまま採用し、黒石商業高校の「誓いのことば」について文言を変えることなく取り入れるのが良い。 ・ 校訓等の方向性として、黒石商業高校の「誓いのことば」を取り入れることは非常に良いことだと考える。 |

| 協議事項 | 協議結果 |
|------------|---|
| <p>校 歌</p> | <p>○ 黒石高校及び黒石商業高校の校歌を併用することとし、その校歌の活用方法については統合校に一任する方向としたい。</p> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他県等の事例にもあるように、統合対象校の校歌をそれぞれ第1校歌、第2校歌として使用することが良いのではないかと。歌詞については手直しが必要かもしれないが、黒石高校、黒石商業高校の校歌を第1校歌、第2校歌とし、校歌の使い方に関しては統合校に一任しても良いのではないかと。 ・ 統合校に引き継げるものは引き継ぐこととし、校歌の歌詞はともかく第1校歌、第2校歌として扱うことが良いのではないかと。 ・ 可能なのであれば第1校歌、第2校歌として活用した方が良い。 ・ 第1校歌、第2校歌として活用するのであれば両校の歴史と伝統も守れることから、わざわざ新たに作るよりは、この考え方が大変良いのではないかと思う。校歌はその地域に合わせた歌詞になっていると思うので、特に不都合がない。 ・ 校歌については、黒石商業高校の関係者の要望も加味しながら、黒石高校を中心に考えていただきたい。 |
| <p>校 章</p> | <p>○ 一新することとし、黒石商業高校の情報デザイン科の生徒にデザインの制作を依頼する方向としたい。</p> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 統合校には情報デザイン科が設置されることになるかと思うので、現在の黒石商業高校情報デザイン科の生徒が苦痛に感じないのであれば、是非同科の生徒に新たな校章のデザインを制作していただき、それを活用してはどうか。 ・ 統合校が新しい学校であると対外的に発信できるのは校章と制服だと考えるので、どちらも新しいものに変えることによって地域の方々が統合について視覚から認識してもらえないのではないかと。校章について、情報デザイン科の生徒にデザインの制作を依頼してはどうかとの意見は大変ありがたいものであり、それにより黒石商業高校としても統合するという意識が高まるのではないかと。 ・ 校章については、黒石商業高校情報デザイン科の生徒が制作したデザインを新しい校章にすれば良いのではないかと。黒石市内の統合する小学校においても黒石商業高校情報デザイン科に依頼し一新している。 ・ 校章に関しても黒石高校を中心に引き継いだ方が良いのではないかと。 ・ 現在の黒石高校の校章は非常にシンプルで好きなので、仮に統合校の名称が「黒石高等学校」となった場合にはそのままが良いのではないかと思う。 |

| 協議事項 | 協議結果 |
|-------------------|--|
| <p>制 服</p> | <p>○ 一新することとし、デザイン等については両校の教職員でワーキンググループを設置するなど早期に検討することとしてもらいたい。</p> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 制服については、中学生や高校生等の意見が反映されていることが多く、最近では、ブレザー型の制服が流行になっていると思う。 また、特に女子の生徒は制服のデザインも進学する高校を選ぶ際の基準になっていると中学校の先生方からも聞いている。このことも踏まえ一新してはどうか。 ・ 新たに統合校に入学する生徒は新しい制服で良いと考える。新しい制服は情報デザイン科の生徒にもデザインを考えてもらえば良いのではないか。 ・ 統合等を行わなくても各高校における判断により変えることがある。 ましてや今回は新しい学校になる。黒石市民や周辺市町村の方々にも新たな学校であることを理解してもらうためにも、是非新しい制服にした方が良い。 ・ 統合校が新しい学校であると対外的に発信できるのは校章と制服だと考えるので、どちらも新しいものに変えることによって地域の方々が統合について視覚から認識してもらえないのではないか。 ・ 制服は子どもたちが着用するものなので、時代に合わせてデザイン等も変わっていくと思う。現在在学している生徒は現在の制服で卒業し、統合校に入学する生徒は新しい制服にしてもらいたい。 ・ 制服を一新する際には、来年度設置される開設準備室にデザイン等の選定を任せてはどうか。 制服業者等の意見も聞きながら、長く使用できる生地にするなど子どもたちに適したものにしてもらいたい。 ・ 平成32年4月に新たな制服が必要だということを考えると、いつまでにデザインの検討等がなされれば良いかなどタイムリミットから逆算して考えた方が良いと思う。 ・ 開設準備室が設置される前ではあるが、黒石高校と黒石商業高校の専門的な知識がある教員等でワーキンググループのように組織し、前もって少しずつ検討していくことが良いのではないか。 ・ 高校は中学生向けの体験入学を大体7月下旬に行っており、その段階で新たな制服ができあがっていれば一番良いと思う。 そのように考えると、来年度開設準備室が設置されてから検討しては間に合わないと思うので、学校関係者等でワーキンググループを立ち上げ、直ちに検討した方が良いのではないか。 |

| 協議事項 | 協議結果 |
|----------------|--|
| <p>目指す人財像等</p> | <p>○ 「社会の一員として地域づくりに意欲的に参画する人財」、「マーケティング活動等に活用できるデザインに関する専門的な知識・技能を身に付け、地域経済の発展に貢献する人財」、「看護に関する専門的な知識・技能を身に付け、地域医療を支える人財」を基本にしてもらいたい。</p> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校訓を理解し実行できる生徒が目指す人財像として良い。 ・ 黒石高校の目指す人財像をベースに大学科商業の情報デザイン科としての目指す人財像を付加してはどうか。 ・ 黒石高校の目指す人財像に黒石商業高校の情報デザイン科の内容をどのように加味するかだと考える。 ・ 中南地区統合校にはあらゆる学習ができる学校になってもらいたい。情報デザインに関する学びも含まれるのはプラスである。我々が直面している統合という現実、マイナスな面で捉えられることが非常に多いが、子どもたちの将来を考え、前向きな発想で知恵を絞っていくべきだろう。 ・ 地元に着した学校として新しい統合校から情報発信してもらいたい。温かく生徒を迎え入れ、地元に残る子どもたちを育てるような学校にしてもらいたい。 ・ 中南地区統合校には大きな期待が持てるような学校になってもらいたい。 <ul style="list-style-type: none"> 具体的には、普通科、看護科、情報デザイン科ではそれぞれの学科が掲げる目標を大きく打ち出し、特に普通科では特進クラスのような環境を新設すれば良いのではないかと。看護科では、北東北三県で唯一の公立専攻科を有しているので従来どおりで良い。情報デザイン科では、美術系大学との連携などによる資格取得に取り組むこと、そのことに対応できる実習棟も整備できれば良いのではないかと。 こけしや黒石よされ等の伝統文化の継承、拡張ができるような学校になってもらいたい。 ・ 統合校での学びを地域の方々にもしっかり理解していただき、地元で愛される学校になることが必要だろう。子どもたちが進学したい、保護者がその学校に進学させたいというような気持ちを持ってもらえるような学校になり、その学びにより、生徒が郷土や地元を誇りを持って経済社会の発展に貢献できる人財になれば良いのではないかと。 ・ 中南地区統合校が普通科、看護科、情報デザイン科の3つの学科を有するメリットを生かして多様性を提供できれば良い。具体的には、看護科、情報デザイン科においては普通科教員の配置により、個別指導が可能となり、より進学に対応できるようになるとともに、普通科においては商業科の教員が配置されることにより、これまでの文系・理系といった進学だけでなく就職にも対応できるようなカリキュラムが可能となるだろう。 |

(2) 中南地区統合校への引継ぎ

| 協議事項 | 協議結果 |
|---|--|
| <p>中南地区統合校に引き継ぐべき黒石高校及び黒石商業高校における特色ある教育活動</p> | <p>○ 統合校でもこれまで両校が行ってきた特色ある教育活動は何らかの形で実践してもらいたい。また、統合前であっても、両校が協力し一緒に活動してもらいたい。</p> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校の統合の際には、統合対象校の校長が自校の特色ある教育活動をそれぞれ校長会に持ち寄り検討した。統合前には生徒同士の合同学習等を行うなどしながら、統合校に引き継いでいるので、高校においても同様に行えないか。 ・ 黒石高校からは学校行事としての「黒石よされ」への参加と学校設定科目「ボランティア探究」の2つをあげている。これらは学校外の活動であり、生徒自らの体験によって、教員からだけではなく地域の方々から学ぶという観点からは是非引き継いでほしい。 ・ 黒石高校及び黒石商業高校ともに黒石市と非常に密着した活動が行われている。黒石よされや黒石こみせまつりへの参加が欠けると黒石市にとっては痛手になるかと思うが、並行して行うことができるかが課題かもしれない。 ・ 地域の祭りやイベント等については、部活動単位での参加は可能かと思うが、学校全体での参加が可能かどうかは今後の検討になると思う。 ・ 黒石よされは学校行事として設定し実施されているので対応可能かと思う。また、黒石こみせまつりもこれまでは部活動単位で商業科の広報の機会という側面も持ちながら参加していたので、統合後は情報デザイン科として参加できるのではないかと思う。 ・ ペーパーファッションショーは、黒石商業高校の文化祭である黒商祭において平成元年から開催している。今年度は黒石高校において、プレ・ペーパーファッションショーを開催し、その黒石高校の代表が黒商祭において作品を披露するなど統合前であっても生徒会同士での交流が進められている。 |
| <p>黒石高校及び黒石商業高校における記念物品</p> | <p>○ 両校にとって非常に貴重な物品であるため、大切に保管がなされるよう引き続き検討してもらいたい。</p> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 記念物品の保管については、黒石高校において普通教室1室又はその約半分の広さの部屋を保管場所の候補としている。実際には、保管する記念物品の量を見てからどちらの部屋にするか決めることになるかと思う。 ・ 黒石商業高校の「種まく人ブロンズ像」は、人目に付く場所に設置してもらいたいとの意見も伺っているので、生徒だけでなく来校者にも見てもらえるように黒石高校校舎1階のコモンスペースなどに設置すれば良いと考えている。 |

| 協議事項 | 協議結果 |
|--|--|
| <p>中南地区 統合校に おける部 活動</p> | <p>○ 統合校に引き継がれるのは情報デザインに関する学びであることを踏まえると、現在黒石高校で実施している部活動で十分ではないかと考える。</p> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動に関しては、フェンシング部など黒石高校のみに設置している部活動は是非引き継いでほしい。なお、バドミントン部については本県のバドミントンの発祥の地が黒石高校とのことなので、是非引き継いでもらいたい。 ・ 運動部については、おおむね黒石高校においても黒石商業高校の部活動が実施されており、新たに設置する必要はなくこのままで良いのではないかと考える。 <p>文化部については、黒石商業高校は商業高校であるため、簿記、ワープロ、情報処理、珠算・電卓の競技大会があることから全て統合し「商業部」として活動しており、主に商業科の生徒が所属している。また、イラスト・漫画研究部の部員の多くは情報デザイン科の生徒になっている。このような状況なので、商業部の方向性については今後統合校において検討してもらいたい。</p> |
| <p>黒石高校 及び黒石 商業高校 に係る各 種証明書 の発行等</p> | <p>○ 以下の内容とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 黒石高校及び黒石商業高校卒業生に対する卒業証明書や成績証明書等の各種証明書の発行については、中南地区統合校がその事務を引き継ぐ。 ・ これまでの例にならい、平成34年度より、県教育委員会ホームページに黒石高校及び黒石商業高校卒業生向けのページを作成し、各種証明書の発行等に係る案内を掲載する。 ・ なお、黒石高校及び黒石商業高校のホームページは、閉校後1年間は存続させるが、それ以降については、県教育委員会のホームページ内に作成した黒石高校及び黒石商業高校卒業生向けのページにつながるようリンクを設定する。 |
| <p>教育実習 生の受入 れ</p> | <p>○ 以下の内容とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 黒石高校及び黒石商業高校卒業生の教育実習生については、中南地区統合校において受け入れることとする。 ・ なお、教育実習生の希望者が多数となるなど、中南地区統合校での受入れが困難となる場合には、県教育委員会から他の県立高等学校長へ受入れを要請する。 |
| <p>指導要録 等の引継 ぎ等</p> | <p>○ 以下の内容とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導要録、沿革に係る資料の保存・管理等については中南地区統合校が引き継ぐ。 ・ その他、物品の移動に関する事などについては、閉校までに黒石高校、黒石商業高校、中南地区統合校及び県教育委員会において十分情報を共有し対応することとする。 |

3 各委員からの要望・意見等について（その他）

- 統合校の特色ある教育活動として、様々な事情はあるかと思うが、黒石市内の参加団体も減少しているので、是非黒石ねぷたまつりへの参加を検討してもらいたい。
- 同窓会等の任意団体の在り方については、同窓会会員同士で課題を共有し課題解決に向かえば良いのではないか。
- 黒石商業高校校舎について、黒石商業高校の閉校時にあっても、校舎の次の構想が見える形にし、是非利活用について検討してもらいたい。

附 属 資 料

- 1 中南地区統合校開設準備委員会設置要綱
- 2 中南地区統合校開設準備委員会委員名簿
- 3 中南地区統合校開設準備委員会オブザーバー名簿
- 4 中南地区統合校開設準備委員会の協議経過
- 5 黒石高校及び黒石商業高校 校歌
- 6 黒石高校及び黒石商業高校 校訓等

1 中南地区統合校開設準備委員会設置要綱

(設置)

第1 青森県立黒石高等学校及び青森県立黒石商業高等学校（以下「両校」と総称する。）の統合による中南地区統合校（以下「統合校」という。）の開設に必要な準備を進めるため、中南地区統合校開設準備委員会（以下「開設準備委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2 開設準備委員会は、次に掲げる事項について協議、検討し、青森県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）に報告する。

- (1) 統合校の名称、教育活動及び目指す人財像に関する事。
- (2) その他、統合校の開設準備に関する事。

(組織)

第3 開設準備委員会は、委員及びオブザーバーで組織する。

2 委員は、別記1に掲げる者のうちから教育長が委嘱する。

3 オブザーバーは、別記2に掲げる者をもって構成する。

4 オブザーバーは、開設準備委員会の会議に出席し、委員の求めに応じて情報提供するものとする。

5 第5第1項で規定する委員長は、開設準備委員会の会議に必要な資料作成等を行うため、必要に応じて、両校の教職員で組織する作業部会を設置することができる。

(任期)

第4 委員の任期は、委嘱した日から平成31年3月31日までとする。

(委員長等)

第5 開設準備委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選による。

3 委員長は、開設準備委員会を主宰する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代行する。

(会議)

第6 開設準備委員会の会議は、委員長が招集する。

(庶務)

第7 開設準備委員会の庶務は、青森県教育庁高等学校教育改革推進室及び両校において処理する。

(その他)

第8 この要綱に定めるもののほか、開設準備委員会の運営に関し必要な事項は、別に定めるものとする。

附 則

- 1 この要綱は、平成30年3月28日から施行する。
- 2 この要綱の施行後最初に開催される開設準備委員会の会議は、第6の規定にかかわらず、教育長が招集する。

別記1

開設準備委員会委員

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1 両校の校長の職にある者2 両校のPTA、同窓会、後援会等のうち各校の校長が推薦した者3 黒石市教育委員会教育長の職にある者4 地域の学校教育関係者として学識経験を有し、教育長が特に必要と認める者 |
|--|

別記2

開設準備委員会オブザーバー

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1 両校の教頭及び事務長の職にある者2 両校の教職員で校長が特に必要と認める者 |
|--|

2 中南地区統合校開設準備委員会委員名簿

(敬称略)

| 所 属 等 | 委 員 名 | 備 考 |
|------------------|---------|------|
| 県立黒石高等学校 校長 | 黒 坂 孝 | 副委員長 |
| 県立黒石商業高等学校 校長 | 三 上 雅 也 | 副委員長 |
| 県立黒石高等学校後援会 会長 | 大久保 朝 彦 | |
| 県立黒石商業高等学校同窓会 会長 | 藤 田 克 文 | |
| 黒石市教育委員会 教育長 | 山 内 孝 行 | |
| 元県立弘前高等学校 校長 | 古 山 哲 司 | 委員長 |

3 中南地区統合校開設準備委員会オブザーバー名簿

(敬称略)

| 所 属 等 | オブザーバー名 | 備 考 |
|--------------------------|---------|-----|
| 県立黒石高等学校 教頭 | 工 藤 康 暢 | |
| 県立黒石高等学校 教頭 | 小 野 淳 美 | |
| 県立黒石高等学校 事務長 | 原 子 敏 | |
| 県立黒石高等学校 教務主任 | 竹 村 俊 哉 | |
| 県立黒石商業高等学校 教頭 | 川 代 由美子 | |
| 県立黒石商業高等学校 事務長 | 福 士 桂 子 | |
| 県立黒石商業高等学校 教務主任 | 須 藤 慎 二 | |
| 県立黒石商業高等学校 情報デザイン科 主任 | 菊 谷 哲 | |

4 中南地区統合校開設準備委員会の協議経過

| 回 | 年 月 日 | 内 容 |
|---|-------------|---|
| 1 | 平成30年 5月16日 | ○校名について ○目指す人財像・学校像について |
| 2 | 平成30年 7月23日 | ○校名の方向性について ○学科の方向性について ○校訓等の方向性について |
| 3 | 平成30年10月29日 | ○校歌の方向性について ○校章の方向性について ○制服の方向性について ○黒石高校及び黒石商業高校の引継ぎ・連携等について ○黒石高校及び黒石商業高校に係る各種証明書の発行等について |
| 4 | 平成30年12月27日 | ○報告書（案）について |

5 黒石高校及び黒石商業高校 校歌

| 黒石高校 | 黒石商業高校 |
|---|--|
| 作詞：清藤 功 作曲：明本 京静 | 作詞：清藤 碌郎 作曲：本間 雅夫 |
| <p>一、水清き教えの庭に 師の君と友は相寄り 浅瀬石の流れとつきぬ とこしえの真理求めて 此処に立つ吾等が母校 われら黒石高校生</p> <p>二、津軽野に高津鳥鳴けば 若人は希望に燃えて 身を鍛え心のみがき 羽ばたかん春を待ちつつ 此処に立つ吾等が母校 われら黒石高校生</p> <p>三、学び舎の行き交う道に 眉あげて友と上げば 岩木嶺は問わず語らず 巖として鑑の如し 此処に立つ吾等が母校 われら黒石高校生</p> | <p>一、霊峰岩木の緑映え 津軽の里に未来あれ 樹てよ青春の厳しさを 育て青春の慈しみ 抱け友情の喜びを ああ黒商 ああ黒商 われらが母校</p> <p>二、連峰甲田に茜さし 仰ぐ心の寛くあれ 満たせ青春の夢高く 磨け青春の技術と道 燃やせ情熱の灯を ああ黒商 ああ黒商 われらが母校</p> |

6 黒石高校及び黒石商業高校 校訓等

| 黒石高校 | 黒石商業高校 |
|---|---|
| <p>■校訓 誠実 敬愛 健康</p> | <p>■校訓 自戒 慈愛 寛容</p> |
| <p>■平成30年度教育目標（目指す生徒像）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何事にも誠実に取り組み、強い意志をもって主体的に学習する生徒 ・豊かな人間性を持ち、他者を思いやる心と郷土に対する誇りを持つ生徒 ・心身ともに健康で、社会の発展に貢献し、逞しく生きる力を持つ生徒 | <p>■平成30年度教育目標</p> <p>本校の創立からの基本精神である「誓いのことば」の実践により、社会に貢献できる心豊かな人を育成する。</p> |
| <p>■平成30年度教育方針</p> <p>生徒の「夢や志」実現のために、知・徳・体の調和のとれた「生きる力」の育成を目指すとともに、保護者や地域から信頼される学校づくりを推進する。そのために、教職員一人一人が自己研鑽に励み、創意工夫を凝らし指導力の向上に努める。</p> | <p>■平成30年度学校生活の基本方針</p> <p>本校創立からの基本精神である「誓いのことば」を自ら進んで実践し、実り多い学校生活を送り、自己の確立と夢や目標の実現を目指す。</p> |
| <p>■平成30年度重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力を育む ・豊かな心を育む ・夢の実現を支援する ・開かれた学校を目指す | <p>■「誓いのことば」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「自戒・慈愛・寛容」を信条とし自らにきびしく他人の痛みのわかる心豊かな人となるよう互いにはげましあおう 2 社会の一員としての自己確立のため一日一日の生活を大切に積みあげて自らの可能性を引き出し学ぶ喜びを創りだそう 3 本校の歴史と伝統はわれわれのみがつくるものであることを自覚し二度とない青春をたぎらせてこれにあたろう |